

## 第9回

## 武漢熱線

Wu-han Hot Line

Wu-han Hot Line

大分市武漢事務所  
マネージャー 全 淑 麗

## 中部振興(崛起)戦略と武漢

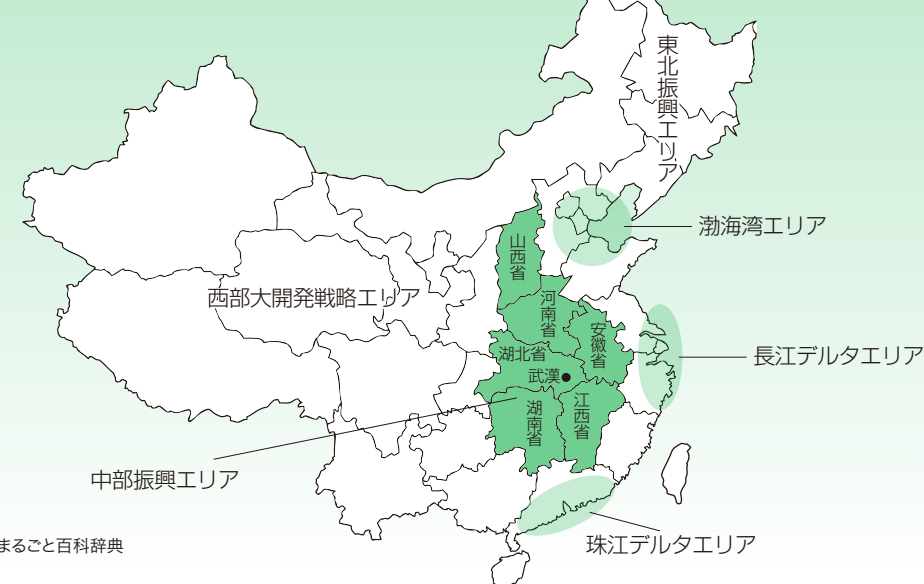
中国の国土開発は、日本の約26倍の960万km<sup>2</sup>という面積が対象となります。広大な国土開発は、まさしくエリアごとの特徴を戦略的にいかながら行なっていくこととなります。改革開放が叫ばれた80年代には、まず輸出入に地の利のある東部沿海地域の開発が奨励され、90年代からは沿海地区の活気をエネルギー、原材料、労働力が豊かな西部大開発戦略にいかし、そしてその後は、東北地区の旧工業地帯の活性化戦略が展開されてきました。そして今、脚光を浴びている中部振興戦略は、2002年に構想が提起され、2004年の全国人民代表大会(中国の国会)において正式に政府の政策として掲げられたものです。中国が20数年間にわたって、持続的に高度成長を果たしてきた要因に、ぶれない段階的なエリア発展政策を実行してきたことにも関係があるようです。

さて、中国中部は、湖北省、湖南省、河南省、山西省、江西省、安徽省の人口約4億6千万人、面積102万km<sup>2</sup>のエリアを指しています。

中部地方はもともと中国の穀倉地帯であり、工業地帯でもありました。しかしながら、近年は珠江デルタ、長江デルタ、渤海湾エリアなどの新興製造業地域からの追い上げで、中部地方は落ち込みが顕著となってきました。

中部振興戦略と日本語で表現していますが、単なる「振興」ではありません。中国語で「崛起 jueqi」と表記される場合、盛り上がってくることをイメージしています。平口の会話では、「お腹が出て

中国の地域開発・振興戦略の展開図



Copyright©2003-2004中国まるごと百科辞典

きて、盛り上がってるじゃないか」みたいな感じで、文書表現では、「そびえ立つ」の意味があります。いずれにせよ、改革開放の中で陥没地域となった中部地方が、まさに視覚的にも盛り上がってきている姿を連想してしまう言葉であります。まさに、政府の意気込みが直に伝わってくる表現ではないでしょうか。

中部地方の課題は、格差、環境をキーワードに産業構造のグレードアップ、イノベーションの強化、生態環境の保護、全国レベルの情報・流通・交通ネットワークの結節拠点の構築などと言われており、いずれも難題ばかりです。この中国中部エリアの中心都市が武漢市です。

かつて、4大都市圏の一角を占めていた武漢市も、知らぬ間に、実力ランキングが下がってしまい、武漢っ子としては悔しい思いをしていましたが、中部振興戦略の追い風は、潮目を大きく変えてしまったようです。

人材面では、大学院生を含む大学生数が82万人(大学52校)を突破し、ついに上海を抜いて全国2位。イノベーションを推進するに足るインテリジェント力が備わってきたようです。産業面も裾野の広い自動車産業(全国3位)、製鉄産業(全国トップレベル)、光エレクトロニクス(世界3位)、橋梁等大型構造物製造(全国1位)などでクラスター化されてきています。昨年の社会消費財の販売額は小売ベースだけで2兆円に達した模様です。また、水資源は豊富にあり一人当たりの量は全国平均の30倍を超えています。さらに高速鉄道路線、高速道路、ハイパーネットワークの結節点となった武漢は今、中部地方を力強くリードしています。

中部地方の飛躍は、これまでにない多くの内需を喚起すると多くのエコノミストが指摘しています。時あたかも第17回中国共産党全国代表大会が開催されました。大会では「人本位の和諧社会」(調和ある社会)という言葉が多く使われました。字の如く「和」は「禾」(穀物)を人々が「口」にできることを意味しており、同時に「諧」は「皆」が「言」を発することのできる状態を表現している言葉です。国内で表舞台に立った武漢市と中部地方は、まさに「和諧社会」の実現に向けて、大きく飛躍するために、屈した膝を開放しようとしています。



夜まで賑わう武漢の繁華街



建設中の高層ビル群